あきらめない気持ち
夢を追い続けたことで、夢を叶えた

阪神タイガースの岩田稔投手。
守口市出身、現在も守口市在住で、2015年12月にもりぐち夢・未来大使に就任しました。
1型糖尿病を抱えながら、プロとして13年目のシーズンを終え、
さまざまな壁を乗り越えてきた岩田投手に
今後の目標について語っていただきました。

2016年「やらな、しゃーない！ 1型糖尿病と不屈の左腕」を発行
岩田投手の生き方が綴られた1冊

プロフィール

1983年10月31日生まれ(35歳)、守口市生まれ。大阪桐蔭高校2年生の秋よりエースとして活躍し、同年秋季大阪府大会で準優勝、近畿大会ベスト8。

関西大学に進学し、威力ある直球と多彩な変化球が評価され、2005年に希望入団枠で阪神タイガースに入団。3年目の2008年には1軍のローテーション投手として定着し、2009年WBC、2014年日米野球では日本代表にも選出された。

高校2年生で発病した1型糖尿病の正しい知識の普及啓発と根治のために、同じ病気と闘う子どもたちとの交流、「1型糖尿病研究基金」への寄付など、社会貢献活動やファンサービス活動に積極的に取り組んでいる。

(掲載情報は12月7日時点)

野球選手を目指す

野球を好きになったきっかけは、父と兄がキャッチボールをしているのを見て、おもしろそうだなと思ったから。「キャッチボールしたかったら、壁にボールをしっかり投げてそのボールをちゃんとキャッチできるようになれ」と父から言われ、高架下(阪神高速)でずっと壁にボールを投げていたといいます。小学生になり、守口市内の野球チームに入り試合に勝ったうれしさから、どんどん好きになっていきました。

〝好きな野球で、プロになれたら〟そう思いはじめたのは中学生のころ。そこから岩田投手の夢は始まります。

2018.11.23　甲子園でファン感謝デーの様子

絶望的な状況
反骨心で
一段上のステップへ

1甲子園での登板時の勇姿
2インタビュー時、甲子園のロッカールームにて、気さくにポーズ
3背番号21の背中姿もかっこよく、日々の筋トレを思わす体格がわかる。
4岩田投手おすすめの「グルメハウスやまぐち(桜町7−17)」のAランチ。オフの時期は奥さまと一緒に。

夢への壁

野球に全力を傾けていた高校2年生のとき、突然1型糖尿病を発病。〝病気になっても野球は続けられる〟医師からの言葉に勇気を持つことができました。そこから病気との付き合いが始まります。1型糖尿病は、食事量、インスリンの量、運動量をうまく調整できれば、体重も増やすこともでき、身体も大きくすることができます。1型糖尿病と共に生きるため血糖値のコントロールを修得する試行錯誤の日々でした。

そんな中、高校卒業後に就職が内定していた会社から、病気を理由に内定の取り消しを伝えられます。

「悔しくて辛かった。絶対に見返してやる、見とけよ」と強い反骨心で、そこから立ち上がり、進学した関西大学でプロから高い評価を受けるまでの選手にレベルアップしました。

前に進む原動力

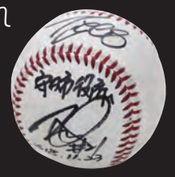
〝一軍のマウンドに立って投げる〟「1型糖尿病を患う子どもたちに対して、僕がマウンドに立つ、元気な姿を見せることが励みになると信じることで、僕自身も頑張ろうと思えるんです」岩田投手のモチベーションを高める大きな要因となっています。

強い気持ち

「ライバルは自分自身。ちょっとでも弱気になったらそこで成長が止まってしまう」そう答えた岩田投手。強い気持ちがなければプロの世界ではやっていけない、口調からそういう想いが伝わってきました。

「プロ野球の世界だけでなく、他の職業の人も同じはず。気持ちが切れると前に進めないと思います。気持ちを強く持ってまだまだ何事にもチャレンジしていきたい」

何事にも逃げず真正面から向き合ってきた岩田投手。あきらめず気持ちを強く突き進むことが、岩田投手の生き方になっています。

夢をあきらめない

「今どんな状況に置かれていてもあきらめない気持ちを忘れないこと。あきらめたらそこで終わってしまう。今まで積み上げてきたことを、絶対に最後まで追求し続けることで、僕みたいにプロ野球選手になれるかもしれないし、いろんなスポーツや分野で超一流になるかもしれない。それにはあきらめない気持ちが1番」